

働く仲間 豪快に守る



8

闘病の体団交や裁判も

「明るくて、うるさくて。オオサカ人、めっちゃ好きやで」。車いすの上で大柄な体を揺らし、関西弁でガハハと豪快に笑う。

大阪市旭区に住むイタリア系カナダ人のデニス・テソラットさん(45)。在日外国人らの労働組合「ゼネラルユニオン」(大阪北区)の委員長に2年前に就き、外国語講師ら数百人いる組合員からの労務相談や企業との団体交渉、さらには国との裁判にも臨む。2007年に英会話学校大手「NOVA」が破綻した際には書記長として先頭に立って交渉し、語学講師の再雇用を勝ち取ったスゴ腕だ。「大変な変わり者」。

在日外国人らの労組委員長

デニス・テソラットさん(45)

自分の体をケアするだけでも大変なのに、人の心配ばかりする」。そう話す同僚を横に、また豪快に笑う。

カナダ南部のウッドストックで生まれ育った。両親はイタリアからの移民。パイプ工場勤務の頃、新聞にあった日本の英会話学校の募集広告が目にとまった。来日経験はなく言葉も知らなかったが、多様な移民社会で育ったので、「面白そう」と早速応募した。

1994年に23歳で来日し、梅田の英会話教室に赴任した。初日の夜、同僚に連れられて、初めて阪急東通商店街を訪れた。「ネオンだらけで、華やか。めっちゃええなあ」。思わず「ウォー」と声を上げた。

「働く所、住む所、遊ぶ所、買い物する所、全部が一つに混ざってる。ごちゃごちゃしてて楽しいし、ほんま便利やな」。両親と同じイタリア人に似た気質と感じ、すぐになじんだ。

当時は語学人気の高まりで各地に外国語学校が誕生し、外国人講師の労働問題も注目を集め始めていた。91年にはゼネラルユニオンが発足。デニスさんは来日1年目に仕事仲間に誘われ、講師の仕事と兼務する形でスタッフになった。

別の学習塾に移っていた2000年、日本人の妻と結婚。2人の男児に恵まれ、生活も軌道に乗ったはずだった。09年、前触れもなく自宅に倒れた。病院に運ばれ、「脳動脈奇形」という先天性の難病と診断された。デニスさんは後遺症で下半身不随に。1年以上入院し、手術も2回受けた。

今日も仕事が終わった。膨大な書類が積み上がったデスクを背に、事務所を出て駅へ。京阪電鉄に揺られて千林駅で降り、千林商店街を通って家に向かう。

「お疲れさーん」「まいど!」。店のおばちゃんや買い物客に次々と声をかけられ、なかなか家にたどり着けない。初対面の人とたばこを吸って談笑し、そのまま飲みに行くことも。「色んな店があって、人がフレンドリー」。足が悪くなる前は近所の銭湯に行くのが好きで、そこでたくさん友達ができた。

なこともたくさんあるけど、自分が頑張ることで同じ日本で働く仲間の助けになれるのはうれしい。

カナダ

人口 3553万人
言語 英語、フランス語
宗教 キリスト教など
大阪在住者 636人
日本在住者 9304人



大阪のお気に入り まち
理由 仕事、居住、遊び、買い物などあらゆる場所が近くにまとまっていて便利



ゼネラルユニオンのメンバーと談笑するデニス・テソラットさん(中央) 大阪北区

当時の学習塾は教室に車いすが入るかを調べてくれるなど、雇用を続けようと努力してくれた。しかし、リハビリしながらの勤務は時間も体力も厳しく、やむなく退職。ユニオンの専従職員に転身した。

今の外国人労働者は語学講師だけでなく、大手メーカーや下請け会社で働く人も多い。「社会保険に加入させてもらえない」といった相談は増える一方だ。日本の労働法や保険制度の理解には苦労するが、「大変

(大部俊哉)